

## 第 2 2 期 事 業 報 告

### 1. 営業の概況

#### (1) 営業の経過及び成果

富山西インターチェンジは、供用開始以来14年が経過し、周辺地域からの高速道路へのアクセスや物流の効率化、文化・観光の振興、広域医療の推進など地域の発展に大きく寄与しているところであります。

こうした中、インターチェンジ周辺開発事業である企業団地への入居につきましては、第1期事業の金屋企業団地には、29社が、第2期事業の呉羽南部企業団地には、19社が入居しており、平成29年3月31日現在の入居率は100%を達成しております。

第22期のインターチェンジ建設負担金預り金につきましては、金屋企業団地、呉羽南部企業団地の合計で89,485千円となっており、(独)日本高速道路保有・債務返済機構(略称：高速道路機構)への借入金(NTT債)の返済金に充当しております。

#### (2) 対処すべき課題

平成33年度までに償還予定のNTT資金の残額は、当期末で290,724千円であり、また、平成31年度から返済開始となる富山市からの借入金残額は721,731千円となっております。償還金の財源である建設負担金預り金の確保のため、富山市に対して、定期借地による入居企業に対する用地買取りの働きかけを求めてまいります。

#### (3) 企業団地への入居におけるインターチェンジ建設負担金預り金の状況

	第20期まで	第21期	第22期	計
一括分譲	694,656千円	0千円	39,662千円	734,318千円
割賦分譲	17,496千円	0千円	0千円	17,496千円
借地	530,452千円	52,664千円	49,823千円	632,939千円
計	1,242,604千円	52,664千円	89,485千円	1,384,753千円